博物館利用に関するアンケート調査結果

資料 1-2 別紙 1

1 調査の概要

(1)調査の目的

吹田市立博物館は、平成4年(1992 年)に開館し、今年で 34 年を迎えます。今後の博物館の在り方を検討し、より良い運営及び施設改善に向けて、幅広く意見を伺い、市民の意識やニーズを調査することを目的とします。

(2)調査方法

ア 一般市民対象

調査期間　令和7年(2025 年)9月1日～9月 30 日
調査対象　市内在住 18 歳以上の市民 2,000 人
抽出方法　無作為抽出
回答方法　郵送又は QR コード読み取りによる Web 上での回答
回答者数　710 人(回答率 35.5%)

イ 児童・生徒対象

調査期間　令和7年(2025 年)7 月中旬～8月下旬
調査対象　小学校 5 年生 533 人、中学校 2 年生 827 人
抽出方法　「JR以南地域」、「豊津・江坂・南吹田地域」、「千里山・佐井寺地域」、「片山・岸部地域」「山田・千里丘地域」、「千里ニュータウン地域」の6つの地域から調査協力校として小学校・中学校から各1校を抽出。
回答方法　上記協力校にアンケートを配布し回収
回答者数　小学生 451 人(回答率 84.6%)、中学生 723 人(回答率 87.4%)

ウ 教員対象

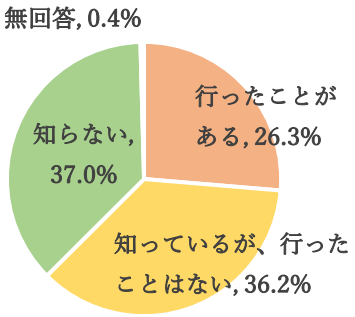
調査期間　令和7年(2025 年)9月上旬～9月 30 日
調査対象　市立小学校学校教育研究会社会科部教員
抽出方法　市立小学校学校教育研究会社会科部教員全員 35 人
回答方法　上記協力教員にアンケートを配布し回収
回答者数　32 人(回答率 91.4%)

2 博物館の認知度・利用状況について

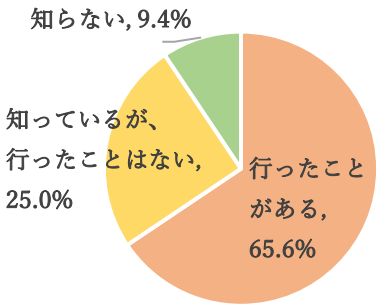
(1)博物館の認知度

「博物館に行ったことがある」と回答したのは、一般市民では 26.3%、教員は 65.6%、小学生では 62.5%、中学生は 34.7%でした。年齢別では 20 歳代・30 歳代の「博物館に行ったことがある」と「知っているが行ったことがない」の割合が低く、それより上の年齢層では約 7 割となっています。「行ったことがある」のは30歳代最も低く(15.4%)、70歳以上の割合が多くなっています。「1回」、「2～5回」の来館者の年齢比は全体の構成比とほぼ同じですが、「6回以上」は70歳代以上が66.7%となっています。

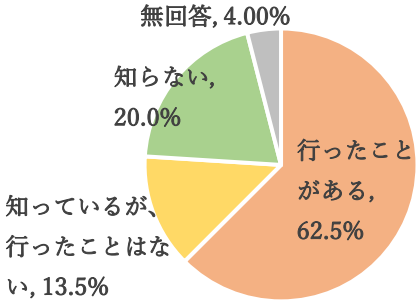
グラフ1　博物館の認知度《一般市民》



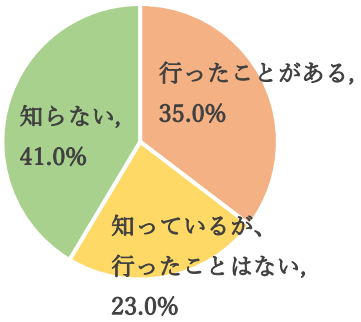
グラフ2　博物館の認知度《教員》



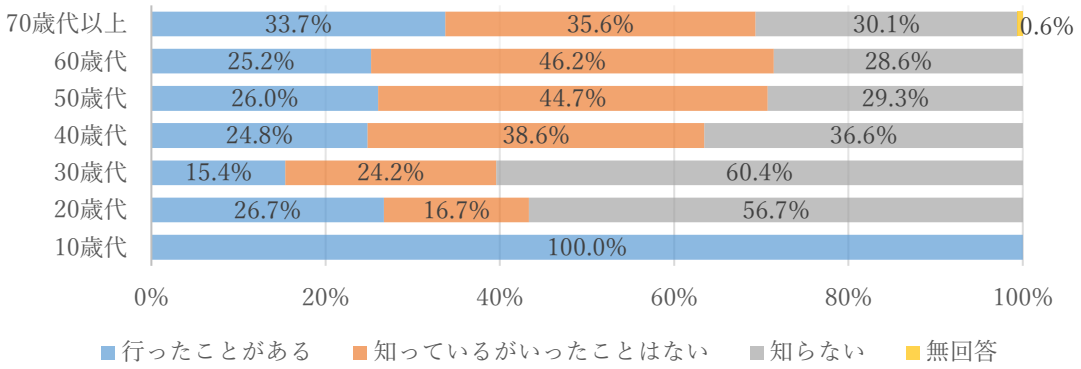
グラフ3　博物館の認知度《小学生》



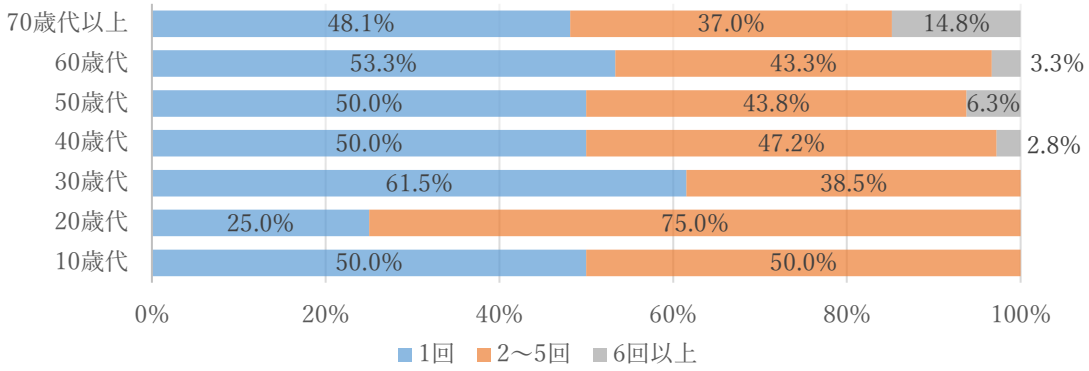
グラフ4　博物館の認知度《中学生》



グラフ5　博物館の認知度《年齢別》



グラフ6　博物館の利用回数《年齢別》

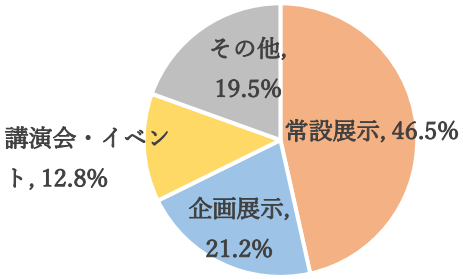


(2)来館の目的

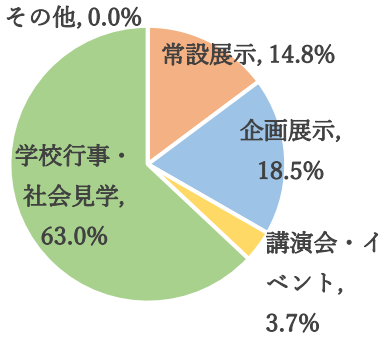
来館の目的は、一般市民では常設展示(46.5%)が最も多く、次いで企画展示(21.2%)、イベント(12.8%)でした。小・中学生及び教員は学校団体見学等で利用した人の割合が多かったです。「6 回以上」来館した小学生は常設展示を目的とし(43.5%)、中学生で「6 回以上」来た人は「講演会・イベント」が最多(51.4%)でした。

一般市民の来館履歴を見ると来館回数が「1回」と「2～5 回」と回答した人の 7 割が「6 年以上前」で、コロナ禍の影響から回復しきれていないことが推測されます。

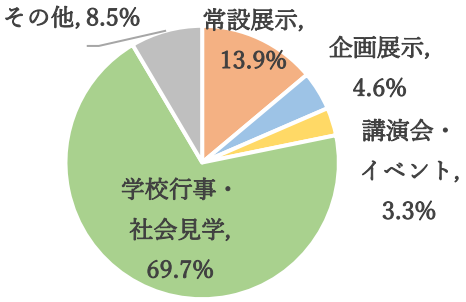
グラフ7 博物館の利用目的《一般市民》



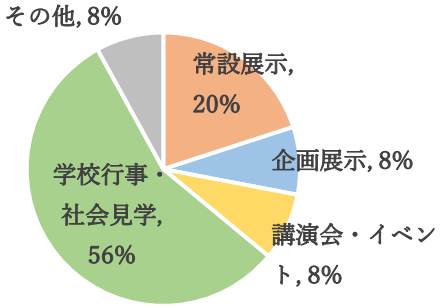
グラフ8 博物館の利用目的《教員》



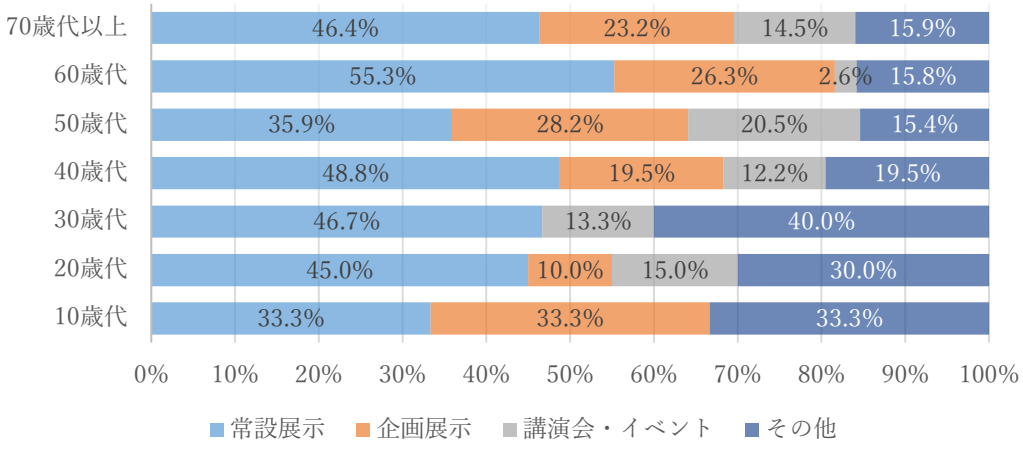
グラフ9 博物館の利用目的《小学生》



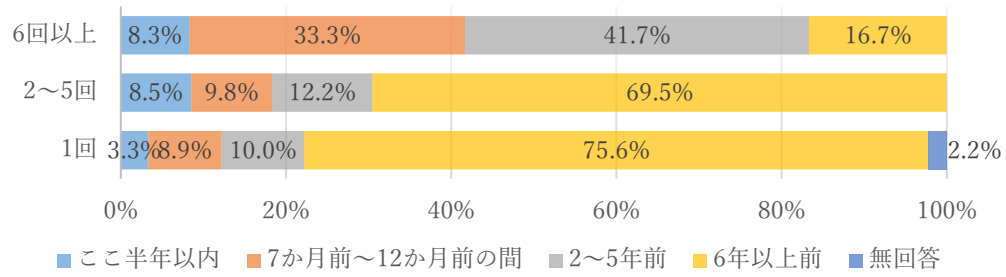
グラフ10 博物館の利用目的《中学生》



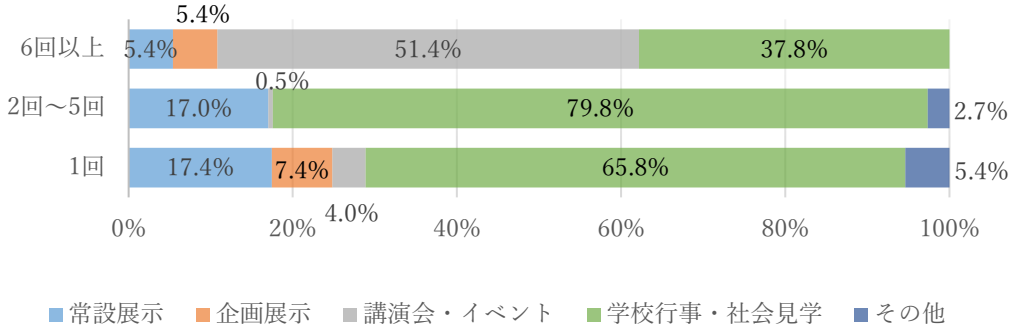
グラフ11 博物館の利用目的《年齢別・一般市民》



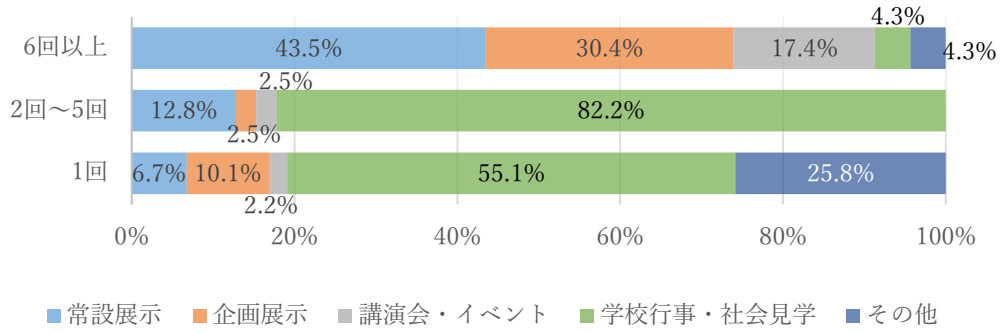
グラフ12　博物館の来館履歴《来館時期別・一般市民》



グラフ13　博物館の来館履歴《目的別・中学生》



グラフ14　博物館の来館履歴《目的別・小学生》



(3)博物館に行かない理由

「博物館を知らない」と回答したのは、一般市民は37.0%、中学生は40.1%、小学生は20.0%でした。「知っているが行ったことはない」のは、一般市民は 36.2%、中学生は 23.1%、小学生は 13.5%で、その理由として、一般市民では「具体的に何があるのかわからない」(39.4%)が最多でした。中学生では「博物館に興味がない」(27.7%)、小学生では「行ける時間がない」(25.9%)が最多でした。「博物館を知らない」とした中学生(2 年生)の割合が多いのは、小学校 3 年生のとき(2020 年)にコロナ禍のため学校団体見学で来館する機会がなかったのも原因と思われます。

「知っているが、行ったことがない」と答えた方にお聞きします。行ったことがない理由は何ですか。（複数回答可）

表１《一般市民》

	全体	博物館に興味がない	具体的に何があるのかわからない	展示内容全般に興味がない	興味がある展示がない	気軽に利用できない	子ども連れで楽しめない	入館料がかかる	アクセスが悪い場所にある	行く時間がない
回答数	467	21	184	10	34	33	10	14	121	40
構成比		4.5%	39.4%	2.1%	7.3%	7.1%	2.1%	3.0%	25.9%	8.6%

表２《小学生》

	全体	博物館に興味が無い	具体的に何があるのかわからない	展示全般に興味がない	興味がある展示がない	気軽に利用できない	アクセスが悪い場所にある	行ける時間がない	その他
回答数	112	23	21	11	9	5	3	29	11
構成比		20.5%	18.8%	9.8%	8.0%	4.5%	2.7%	25.9%	9.8%

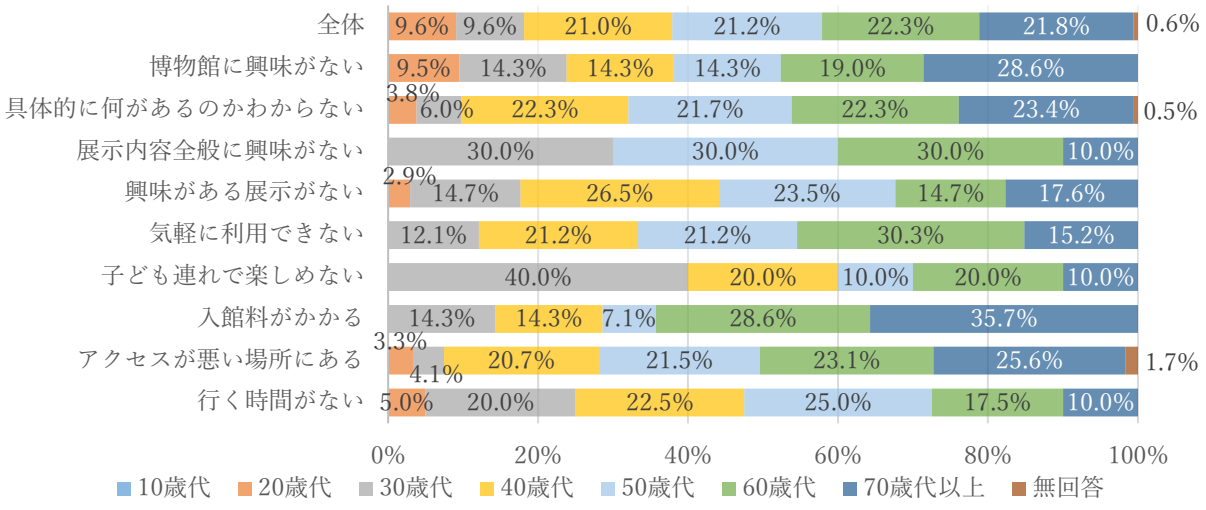
表３《中学生》

	全体	博物館に興味が無い	具体的に何があるのかわからない	展示全般に興味がない	興味がある展示がない	気軽に利用できない	アクセスが悪い場所にある	行ける時間がない	その他
回答数	324	90	62	28	18	24	14	78	10
構成比	100%	28%	19%	9%	6%	7%	4%	24%	3%

表４ 教員

	全体	博物館に興味が無い	具体的に何があるのかわからない	展示内容全般に興味がない	興味がある展示がない	気軽に利用できない	子ども連れで楽しめない	入館料がかかる	アクセスが悪い場所にある	行く時間がない
回答数	12	1	6	0	0	1	0	0	2	2
構成比		8.3%	50.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%

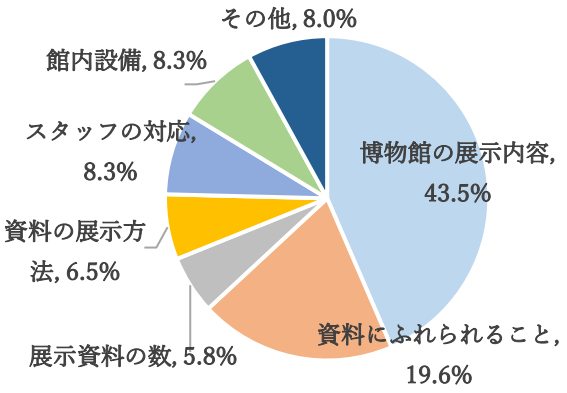
グラフ15 吹田市立博物館に行かない理由《年齢比率》



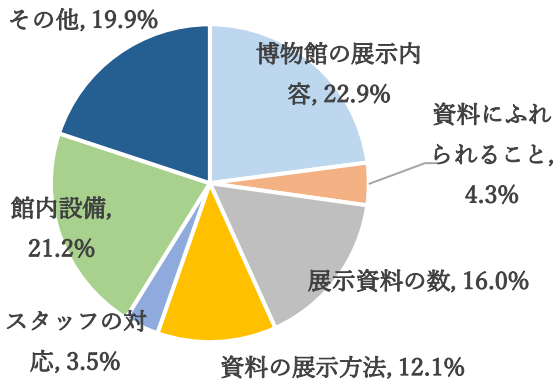
3 博物館の良かった点･改善すべき点

博物館に行ったことがある方に良かった点と改善すべき点について回答を求めたところ、良かった点では一般市民･小中学生とも「展示内容」が最多でした（一般市民 43.5%、中学生 30.4%、小学生 23.1%）。当館で長年取り組んできている「さわる展示」も「よかった」とした人の割合が 19.6%で 2 番目に多かったです。しかし、一般市民では、良かった点として最多であった「展示内容」を改善すべき点として最多（22.9%）の人が挙げられていました。

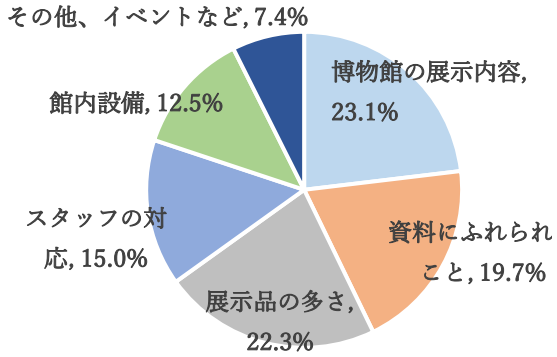
グラフ16 博物館の良かった点《一般市民》



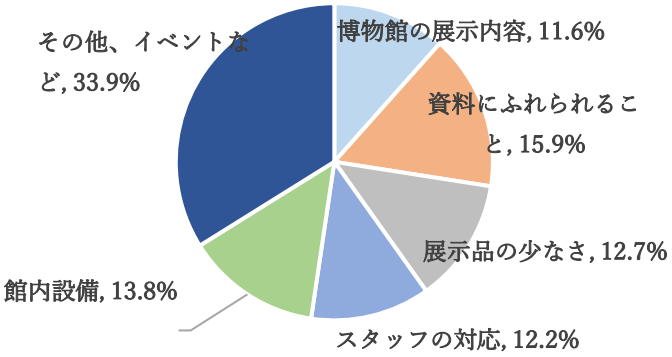
グラフ17 博物館の改善すべき点《一般市民》



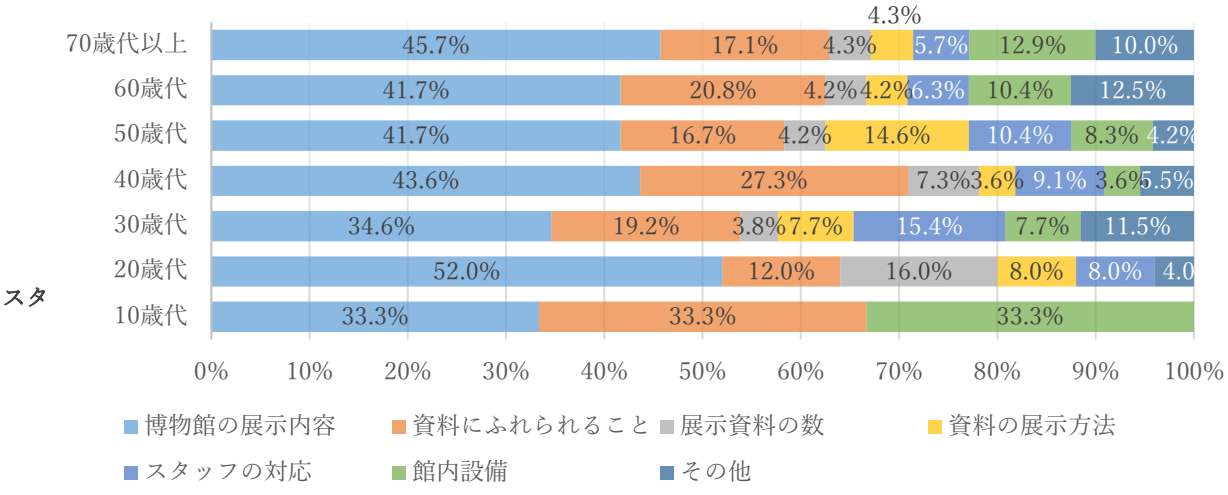
グラフ16 博物館の良かった点《小学生》



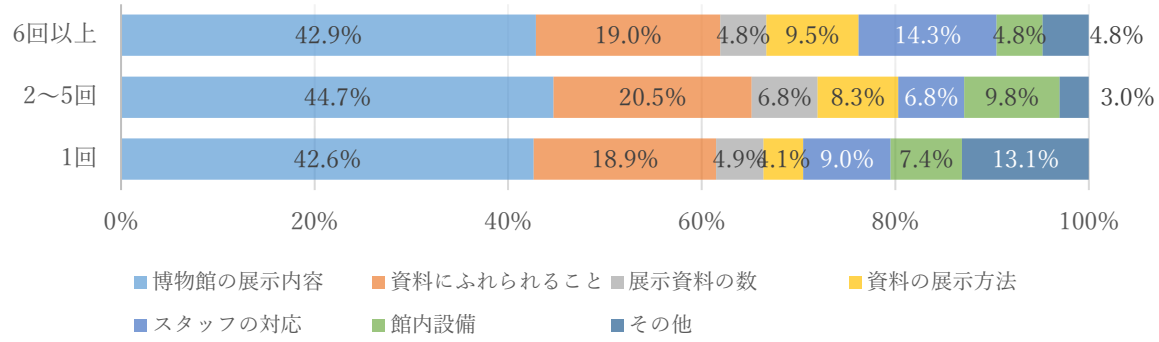
グラフ17 博物館の改善すべき点《小学生》



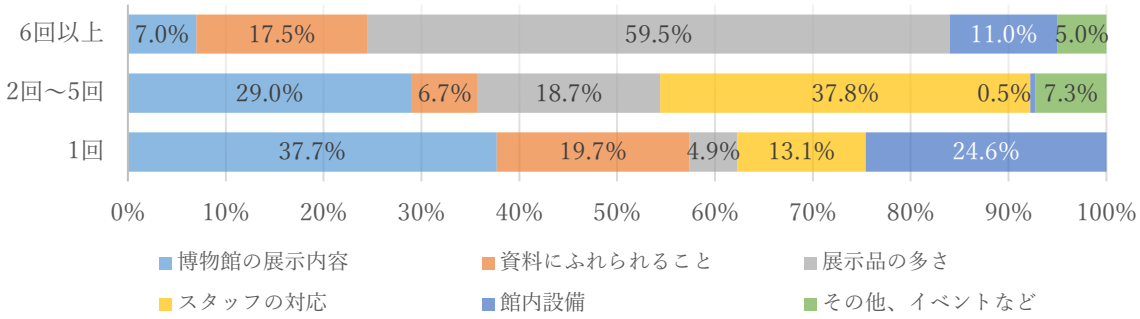
グラフ20 博物館の良かった点《年齢別》



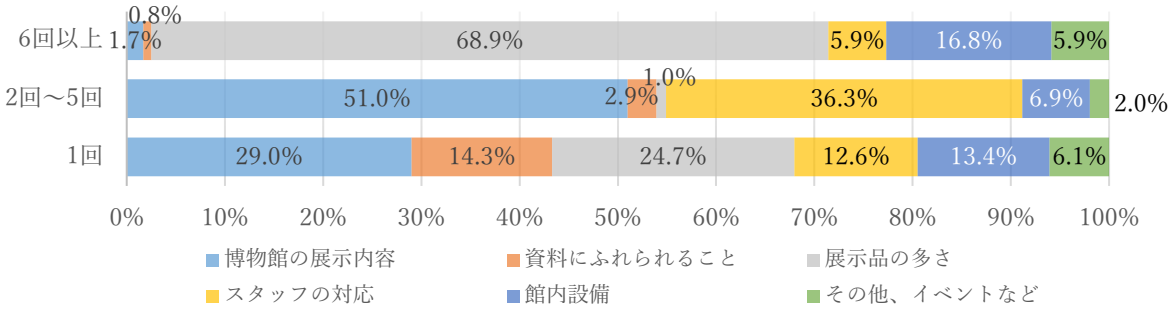
グラフ21　博物館の良かった点《来館履歴別・一般市民》



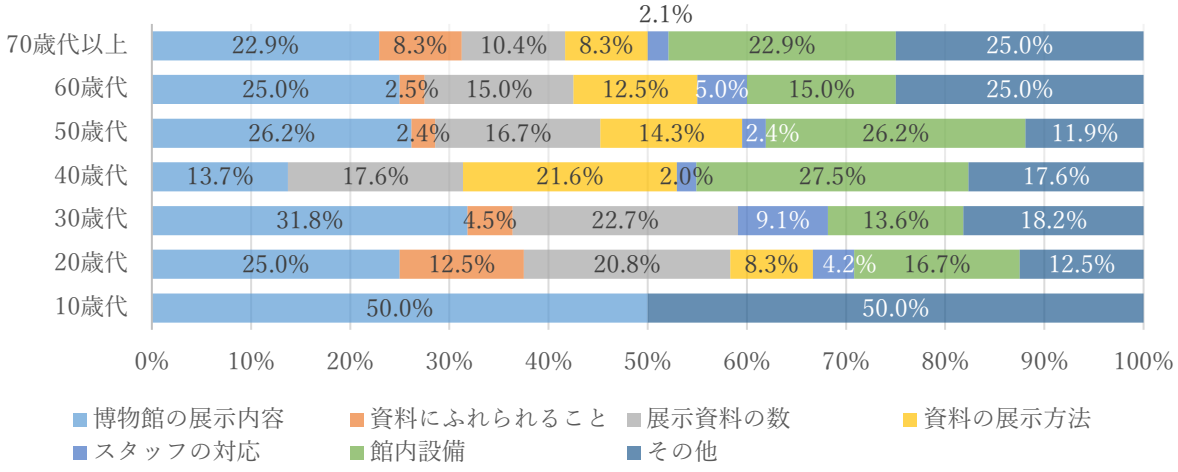
グラフ22　博物館の良かった点《来館履歴別・小学生》



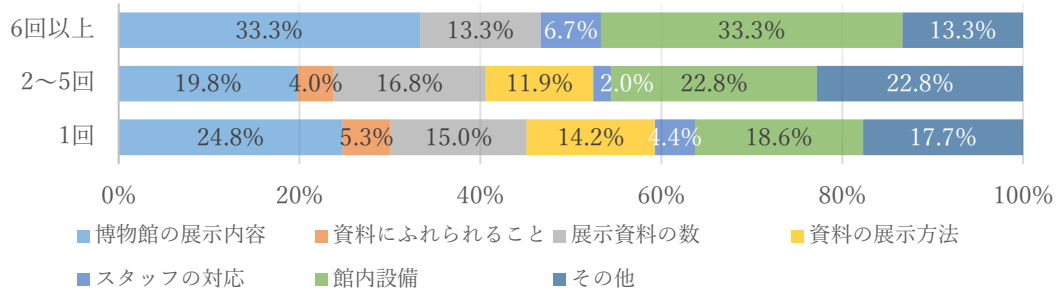
グラフ23　博物館の良かった点《来館履歴別・中学生》



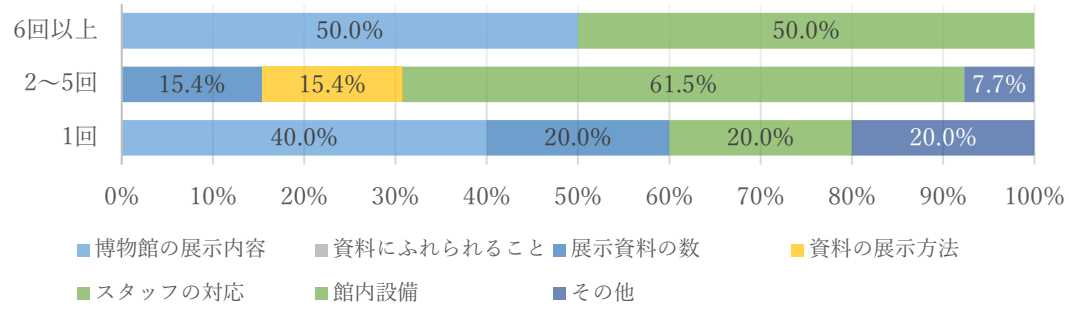
グラフ24　博物館の改善すべき点《年齢別》



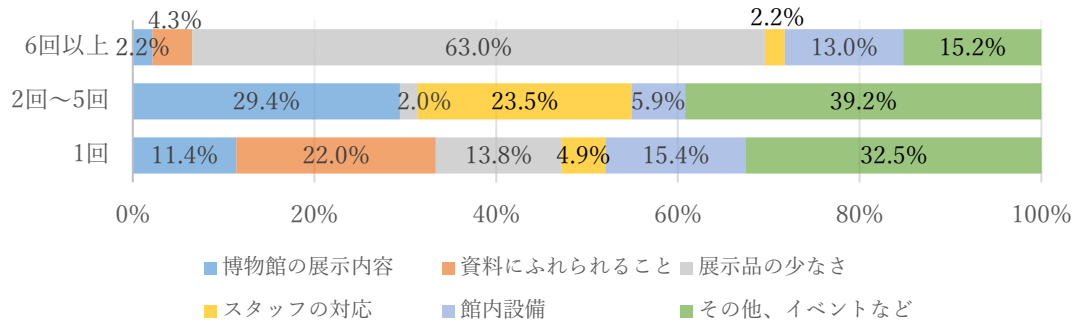
グラフ25　博物館の改善すべき点《来館履歴別・一般市民》



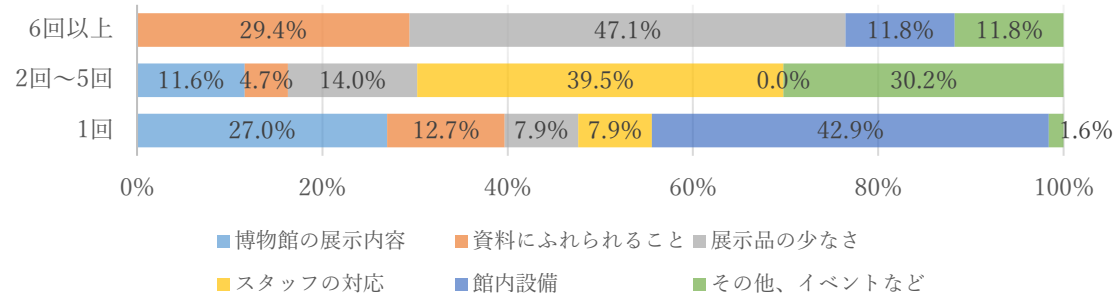
グラフ26　博物館の改善すべき点《来館履歴別・教員》



グラフ27　博物館の改善すべき」点《来館履歴別・中学生》



グラフ28　博物館の改善すべき点《来館履歴別・小学生》



4 博物館の展示について

「どのような展示があるとよいか」との問いには、一般市民は「吹田市に関する文化財や資料の展示」が最多で、小・中学生は「体験型展示」が最多でした。当館では「さわる展示」や特別企画「むかしのくらしと学校」でも体験型展示を実施していますが、より多様な体験できる展示が求められています。

また、小学生の 20.6%、中学生の 21.5%が「3D や AR 等のデジタル技術を用いた展示」があるとよいとしていて、デジタル化への対応の必要性がうかがえます。そのほか教員は「子供向けの展示」を希望する人の割合が最多（23.0%）であるため、学校が利用しやすいような展示の手法や内容を取り入れることで、将来の博物館利用者となる小・中学生の認知度を上げ、「博物館に行きたい」と思う気持ちを醸成することにつながればと思います。

どのような展示があるとよいと思いますか。（３つ選んで回答ください）

表 5《一般市民》

	全体	有名な文化財や資料の展示	吹田市に関する文化財や資料の展示	専門性が高い内容の展示	発掘調査の成果に関する展示	子ども向けの展示	3D や AR 等のデジタル技術を用いた展示	シアタールームでの映像展示	体験型の展示	その他
回答数	1921	249	**364**	121	113	261	229	203	**350**	31
構成比		13.0%	**18.9%**	6.3%	5.9%	13.6%	11.9%	10.6%	**18.2%**	1.6%

表 6《小学生》

	全体	有名な文化財や資料の展示	吹田市に関する文化財や資料の展示	発掘調査の成果に関する展示	3D や AR 等のデジタル技術を用いた展示	シアタールームでの映像展示	体験型の展示	その他
回答数	1032	137	135	87	**213**	156	**282**	22
構成比		13.3%	13.1%	8.4%	**20.6%**	15.1%	**27.3%**	2.1%

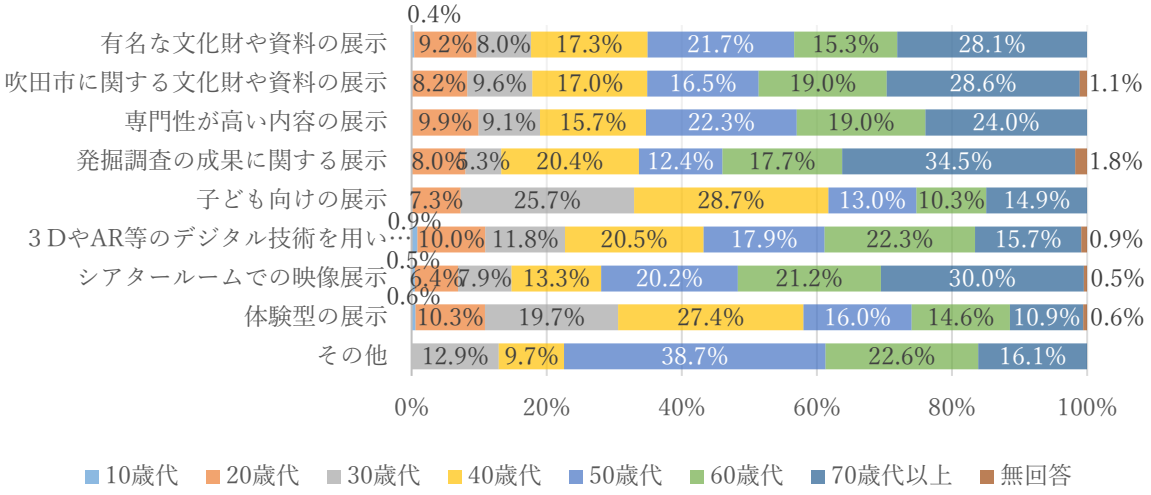
表 7《中学生》

	全体	有名な文化財や資料の展示	吹田市に関する文化財や資料の展示	発掘調査の成果に関する展示	3D や AR 等のデジタル技術を用いた展示	シアタールームでの映像展示	体験型の展示	その他
回答数	1453	239	174	109	**313**	193	**399**	26
構成比		16.4%	12.0%	7.5%	**21.5%**	13.3%	**27.5%**	1.8%

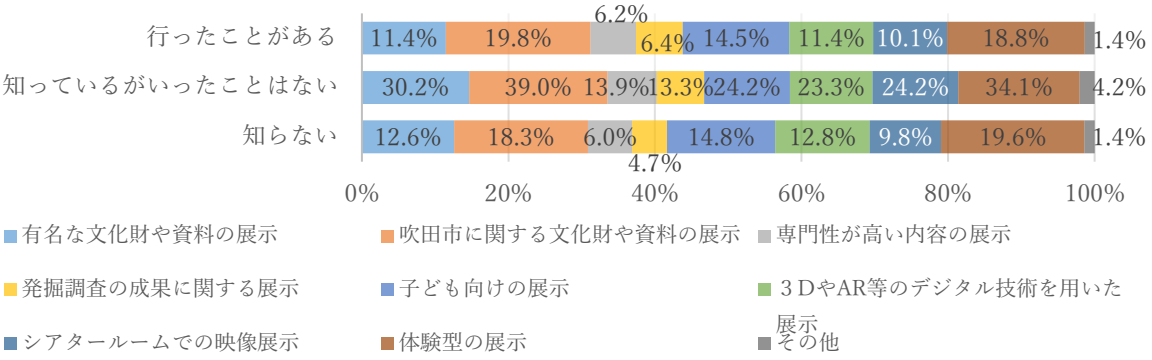
表 8《教員》

	全体	有名な文化財や資料の展示	吹田市に関する文化財や資料の展示	専門性が高い内容の展示	発掘調査の成果に関する展示	子ども向けの展示	3D や AR 等のデジタル技術を用いた展示	シアタールームでの映像展示	体験型の展示	その他
回答数	100	11	15	2	5	**23**	13	11	**18**	2
構成比		11.0%	15.0%	2.0%	5.0%	**23.0%**	13.0%	11.0%	**18.0%**	2.0%

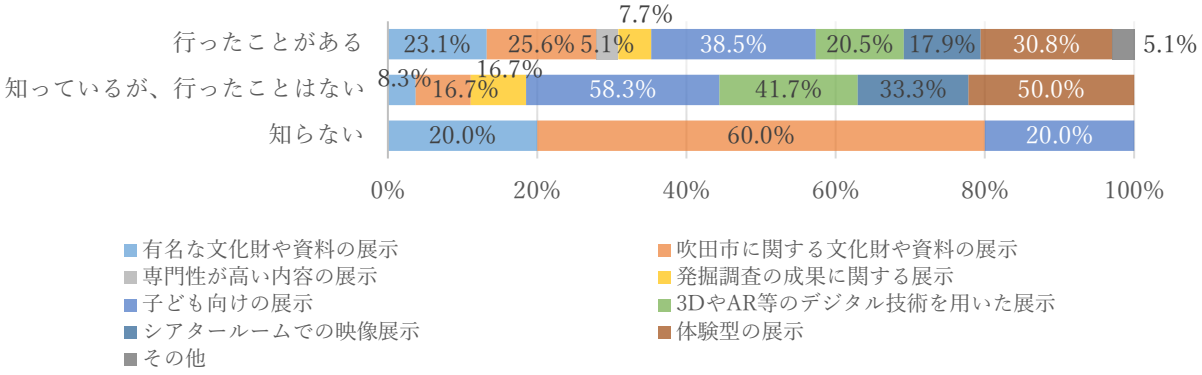
グラフ29　あると良い展示《年齢比》



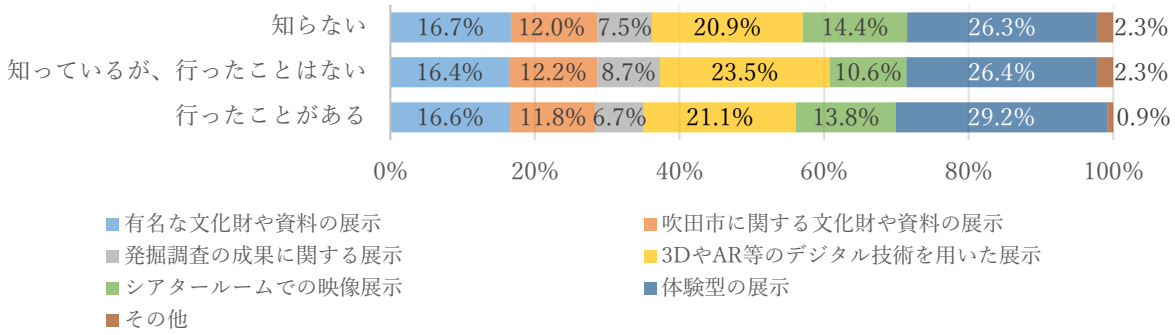
グラフ30　あると良い展示《認知度別・一般市民》



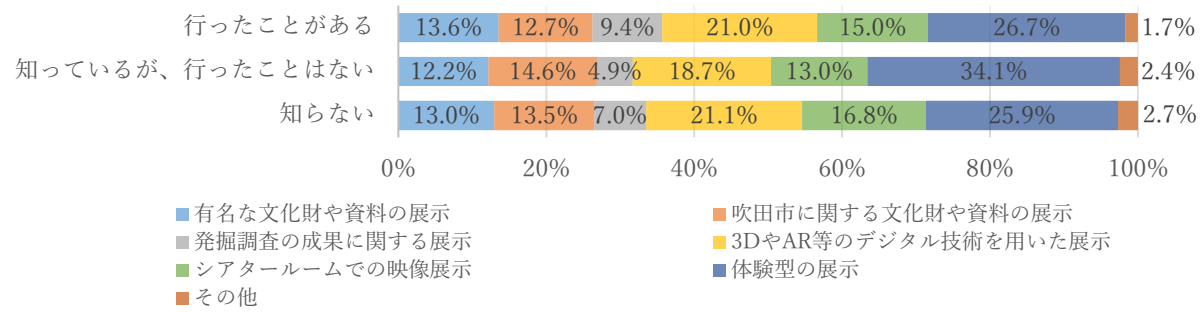
グラフ31　あると良い展示《認知度別・教員》



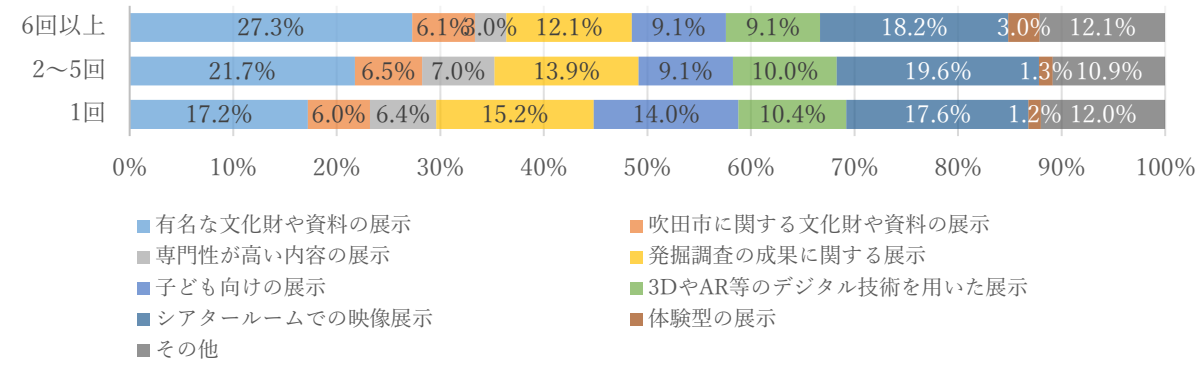
グラフ32　あると良い展示《認知度別・中学生》



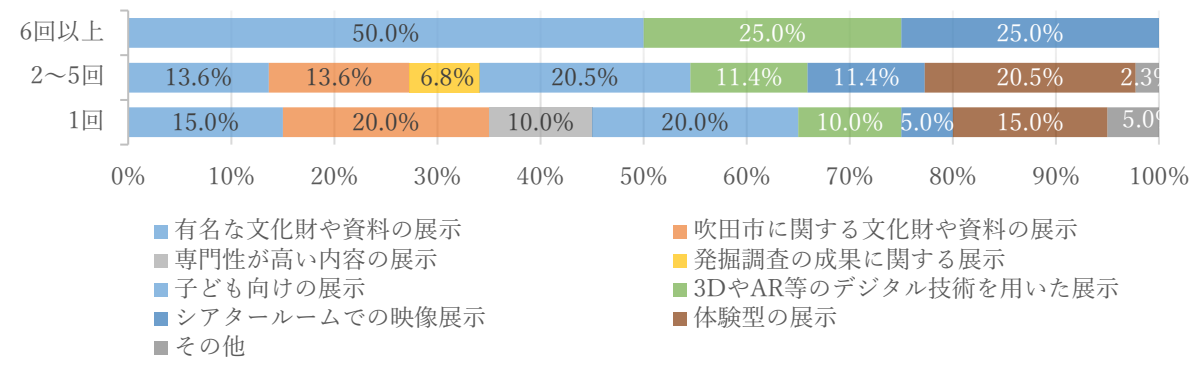
グラフ33　あると良い展示《認知度別・小学生》



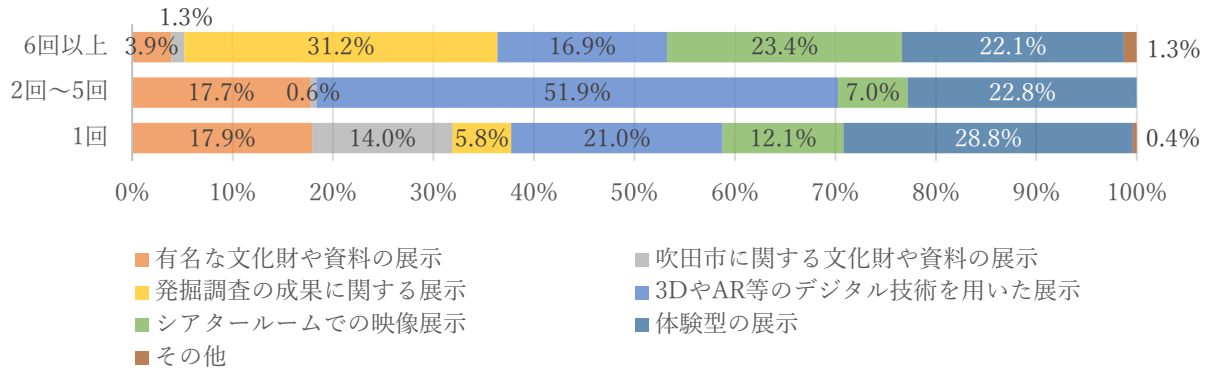
グラフ34　あると良い展示《来館履歴別・一般市民》



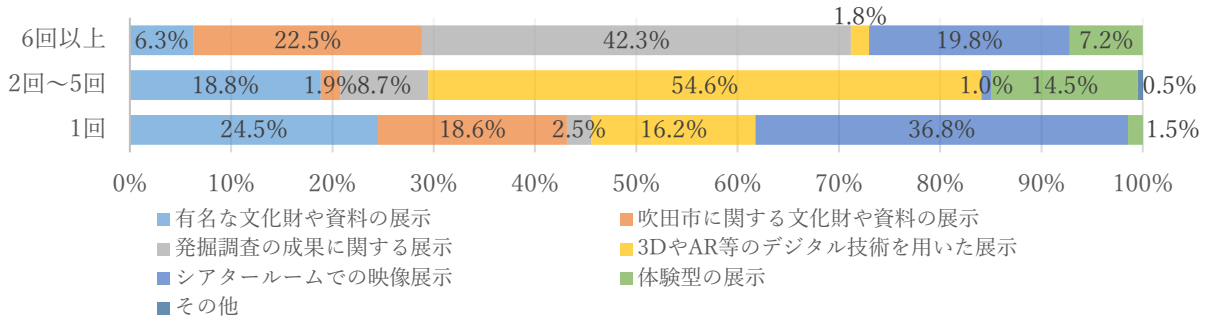
グラフ35　あると良い展示《来館履歴別・教員》



グラフ36　あると良い展示《来館履歴別・中学生》



グラフ37　あると良い展示《来館履歴別・小学生》



5　博物館の設備について

展示以外の設備で最も多かったのは、「カフェ・レストランがあると良い」（一般市民　22.9%）で、小・中学生は「飲食持ち込み可能な無料休憩スペース」が多く（小学生　24.7%・中学生　28.2%）、これは一般市民でも 19.5%ありました。また、子供連れ・家族連れで楽しめる施設を望む人も多くいました。

展示以外でも気軽に訪れることができる施設が望まれる傾向がうかがえます。

博物館の展示室以外で、どのような設備があるとよいと思いますか。（３つ選んで回答してください。）

表 9 《一般市民》

	全体	持ち込み飲食可能な無料で利用できる休憩スペース	市民が体験学習や創作活動などで利用できるスペース	休日や放課後に自由に使える自習スペース	子ども連れでも楽しめる施設や設備	ミュージアムショップなどの物販機	カフェやレストラン等の飲食施設	その他
回答数	1875	**365**	311	192	**360**	191	**429**	27
構成比		**19.5%**	16.6%	10.2%	**19.2%**	10.2%	**22.9%**	1.4%

表 10 《小学生》

	全体	ゆっくりできる休憩スペース	体験学習などに利用できるスペース	市民が利用できるスペース	家族で楽しめる施設や設備	ミュージアムショップ	雰囲気の良いカフェ	その他
回答数	1183	**292**	171	81	**239**	167	**215**	18
構成比		**24.7%**	14.5%	6.8%	**20.2%**	14.1%	**18.2%**	1.5%

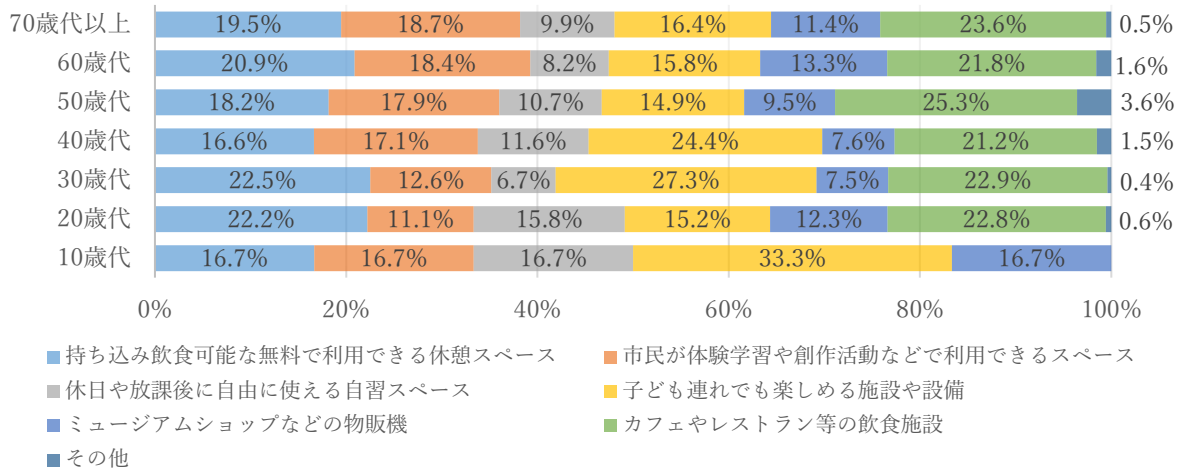
表 11《中学生》

	全体	ゆっくりできる休憩スペース	体験学習などに利用できるスペース	市民が利用できるスペース	家族で楽しめる施設や設備	ミュージアムショップ	雰囲気の良いカフェ	その他
回答数	1824	**516**	222	162	**270**	185	**438**	31
構成比		**28%**	12%	9%	**15%**	10%	**24%**	2%

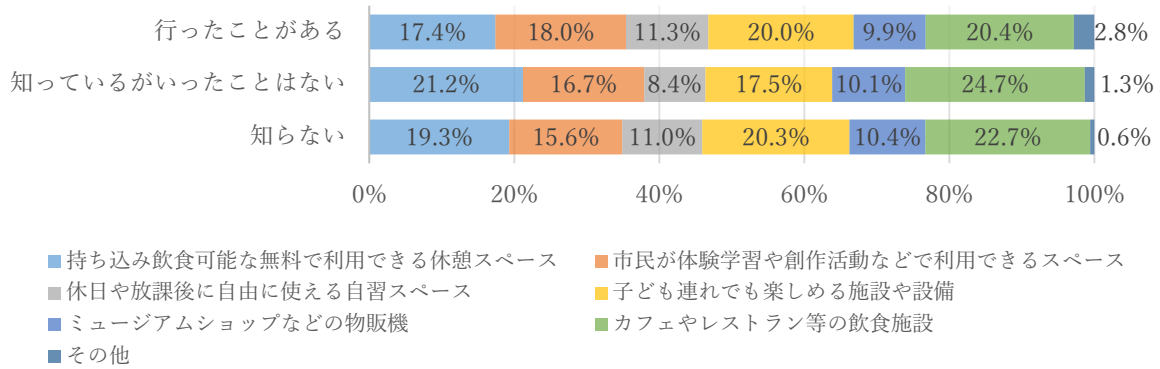
表 12《教員》

	全体	持ち込み飲食可能な無料で利用できる休憩スペース	市民が体験学習や創作活動などで利用できるスペース	休日や放課後に自由に使える自習スペース	子ども連れでも楽しめる施設や設備	ミュージアムショップなど物販機能	カフェやレストラン等の飲食施設	その他
回答数	73	11	**18**	13	**21**	5	5	0
構成比		15.1%	**24.7%**	17.8%	**28.8%**	6.8%	6.8%	0.0%

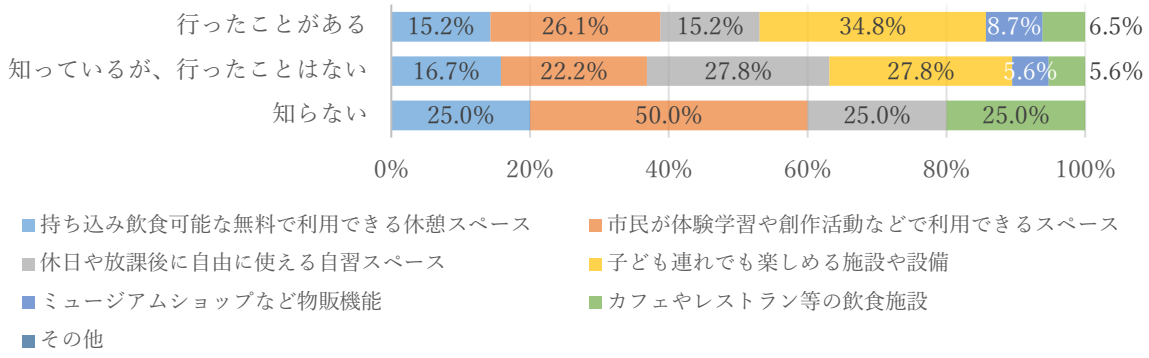
グラフ38　あると良い設備《年齢別》



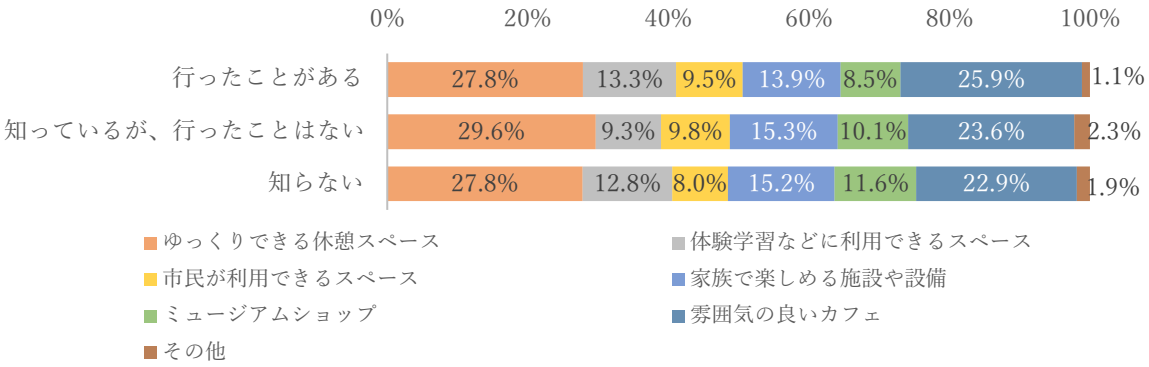
グラフ40　あると良い設備《認知度別・一般市民》



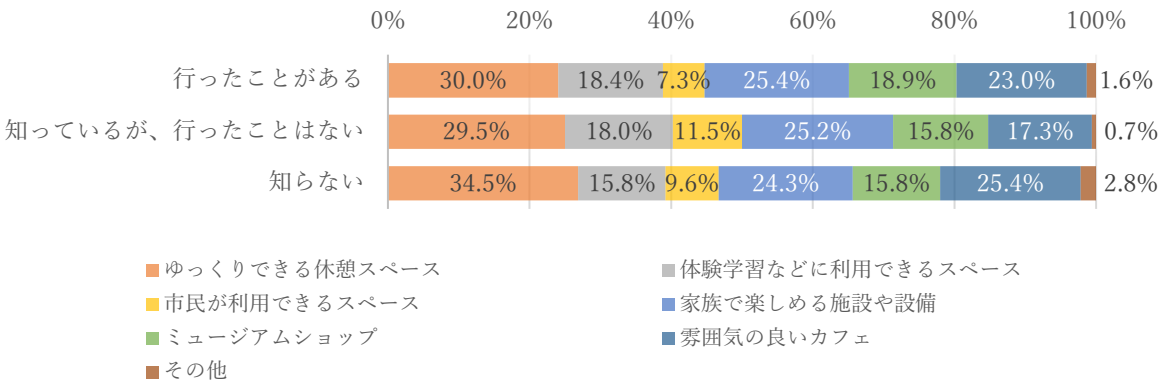
グラフ41　あると良い設備《認知度別・教員》



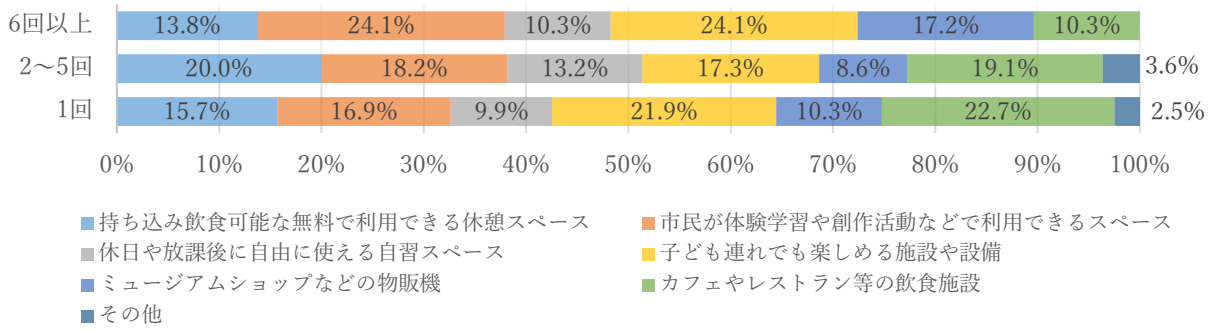
グラフ42　あると良い設備《認知度別・中学生》



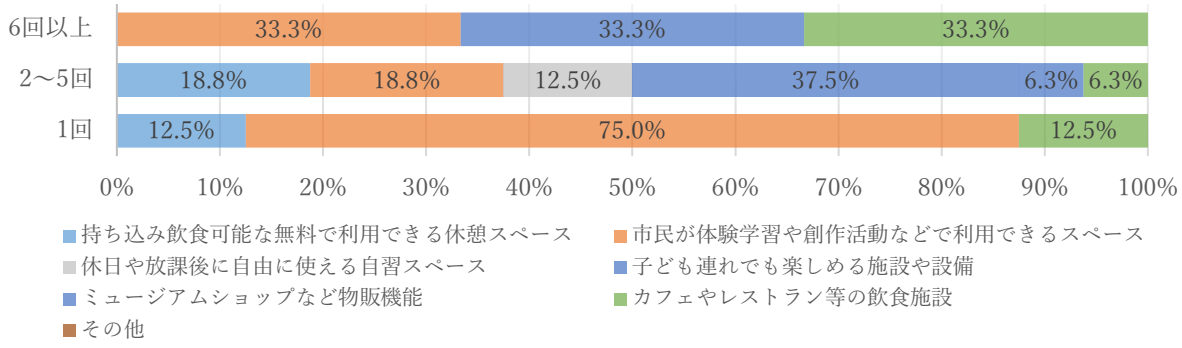
グラフ43　あると良い設備《認知度別・小学生》



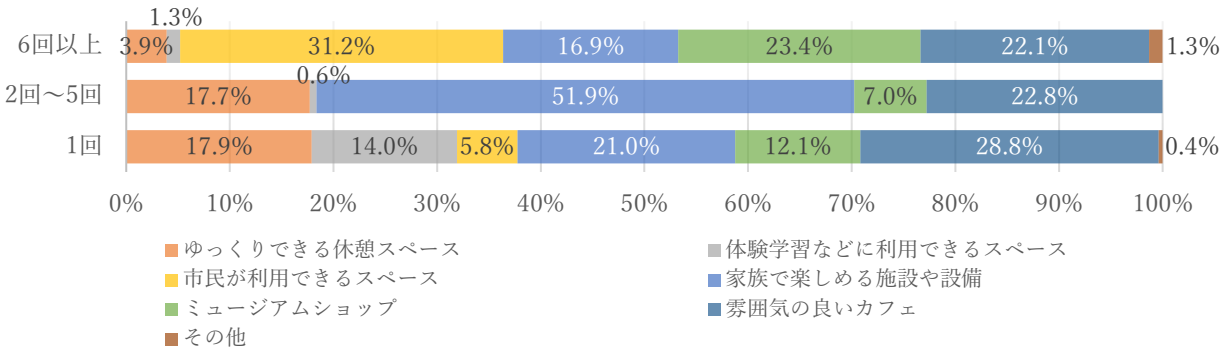
グラフ44　あると良い設備《来館履歴別・一般市民》



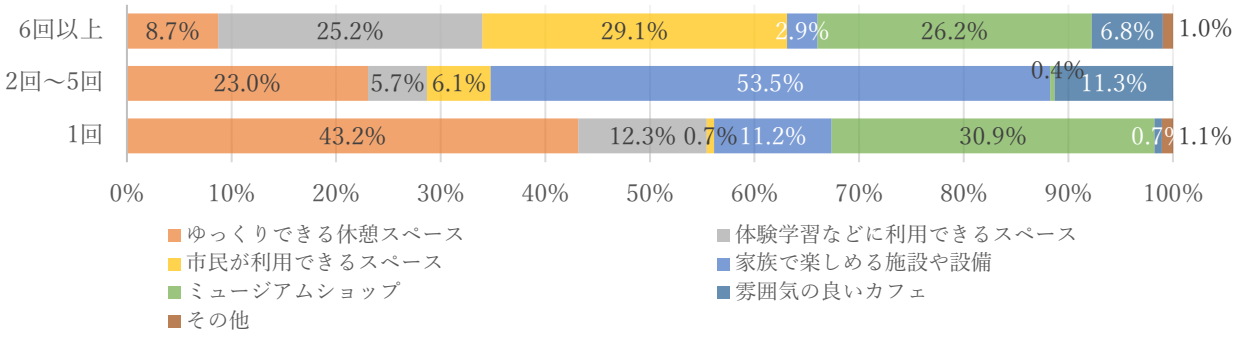
グラフ45　あると良い設備《来館履歴別・教員》



グラフ46　あると良い設備《来館履歴別・中学生》



グラフ47　あると良い設備《来館履歴別・小学生》



6 博物館の活動について

「博物館の活動について、どのような活動に力を入れるべきだと思いますか。」(一般市民と教員に質問)との設問に対して最も多かったのは、「吹田市ゆかりの文化財や歴史資料の収集や調査、研究、展示」で21.4%、次いで「ホームページやSNSなどを活用した情報発信」(20.7%)、「子ども向けのイベントの充実」(19.2%)という結果でした。

吹田市の文化財の収集保管・調査・展示という博物館の本来的な役割は市民にも一定の理解はされていますが、ここでも、「行きたくなる博物館」として子供が楽しめる要素求める割合が多いことが挙げられます。「その他」では、「他の学術機関や博物館との連携、協業」、「専門性の高さ、特殊性。他の博物館との差別化」という意見もありました。

博物館の活動について、どのような活動に力を入れるべきだと思いますか。(3つ選んで回答してください。)

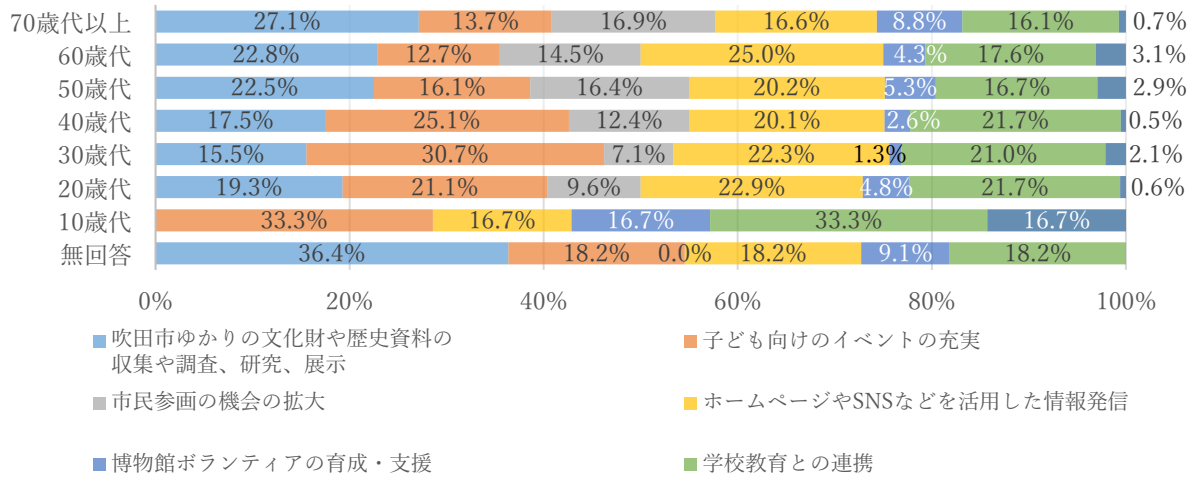
表13 《一般市民》

	全体	吹田市ゆかりの文化財や歴史資料の収集や調査、研究、展示	子ども向けのイベントの充実	市民参画の機会の拡大	ホームページやSNSなどを活用した情報発信	博物館ボランティアの育成・支援	学校教育との連携	その他
回答数	1874	**401**	**359**	252	**388**	91	352	31
構成比		**21.4%**	**19.2%**	13.4%	**20.7%**	4.9%	18.8%	1.7%

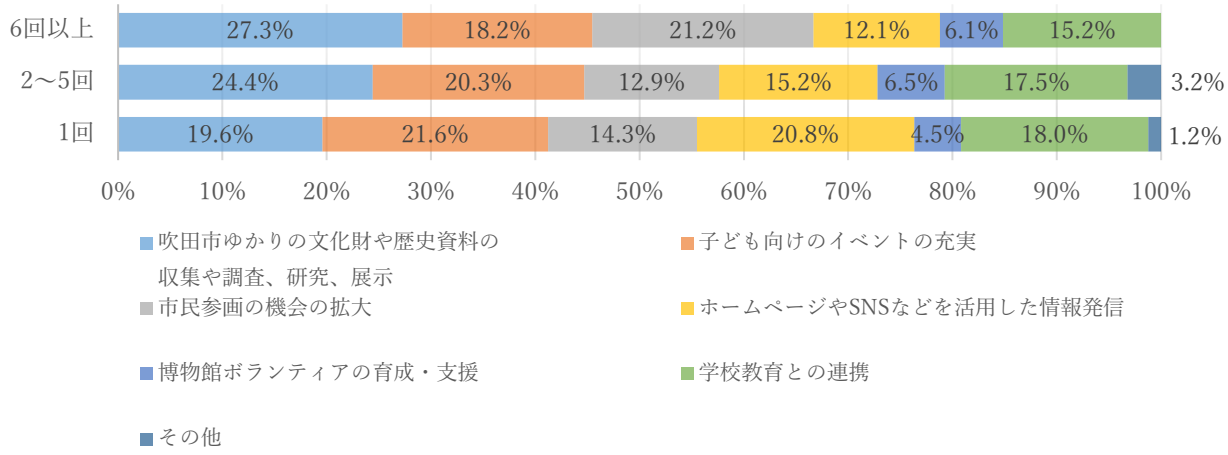
表14 《教員》

	全体	吹田市ゆかりの文化財や歴史資料の収集、調査、研究、展示	子ども向けのイベントの充実	市民参画の機会の拡充	ホームページやSNS等を活用した情報発信	博物館ボランティアの育成・支援	学校教育との連係	その他
回答数	74	14	**22**	6	10	4	**18**	0
構成比		18.9%	**29.7%**	8.1%	13.5%	5.4%	**24.3%**	0.0%

グラフ48 力を入れるべき活動《年齢別》



グラフ49　力を入れるべき活動《来館履歴別・一般市民》



7　アンケート調査の結果のまとめについて－市民の求める博物館像－

今回のアンケート結果では、博物館には展示やイベントで吹田市に関する歴史や文化財を「体験」しながら子供・家族を含む幅広い年齢層が気軽に楽しめる施設であることが求められています。また、アクセスの悪さを挙げる方が多くありましたが、「ゆったりとくつろげるスペース」、「気軽に利用できる施設」であれば行きたいと思う人も多くありました。そうした空間の創出が今後の方向性の一つと考えます。

博物館利用者を増加させるためには、「博物館を知らない」とした人に対しては、まずは博物館を知ってもらうことが第一であり、「知っているが行ったことはない」の博物館に行かない理由に、一般市民・中学生・小学生・教員とも「具体的に何があるのかわからない」とした人が多くあったように、情報発信不足があったことから、博物館の存在、活動内容について、SNS など今の時代に合った発信方法の充実が必要と考えます。30 歳代・40 歳代では「子連れで楽しめない」と感じている人が 60%を占めており、これらの年齢層は「力を入れるべき活動」として「子供向けのイベントの充実」を求める割合も大きく、展示やイベントにおいて子供をターゲットとした企画や工夫を行い、それを発信することが求められています。

また、リピーターを増やすことも利用者増にとって一つの柱と考えます。来館履歴のある人の来館目的を見ると「常設展示」が最も多く、50 歳代の 35.9%、10 歳代の 33.3%のほかは、40～50%となっていることから、常設展示を飽きない展示へと改善を図ることがリピート率の向上につながると考えられます。すなわち、体験型展示の充実や柔軟な展示替え等による、更なる常設展示の充実が求められ、小・中学生があると良いとした「3D や AR 等のデジタル技術を用いた展示」の導入やロビーのスペースの活用も含めた常設展示のリニューアルを行うことで、リピーターの獲得を目指したいと思います。

さらに、小中学生が博物館を訪れた目的は「学校行事・社会見学」が最も多く、学校教育を通じて子供たちの認知率が上がっていることが分かります。一方で、教員の中には博物館を知らないとした人が 9.4%いたことも分かりました。教員に博物館の存在や活動を知ってもらうことが子供たちの博物館利用に結びつくことから、学校が利用しやすい展示や教育プログラムの開発とともに教員への周知が必要になってきます。

今後の博物館運営につきましては、「子供」と「体験」をキーワードに事業展開としていくべきと考えます。子供とその保護者世代が求める展示やイベントを充実やデジタル化を含めた設備更新により、市民が求める博物館と改善を図ります。